

サクラのからだ学

■花びら

エゾヤマザクラは一重咲きで一輪5枚・クシロヤエは一輪約40枚で八重咲き、ミヤマザクラ以外は先端に切れ込みがあります。一重咲の花でおしべは30~40本、めしべは1本（一花に果実の一つ）。

■花のつき方

エゾヤマザクラはほぼ同じ位置から2~3輪付く「散形状」花序。ミヤマザクラはブドウの房状に10輪ほどつく「総状」花序。シウリザクラは15cm程の長い筒状の「総状」花序。

■果実・・・(サクランボ)

一本のめしべに果実が一つ種子（核）一つ。リンゴの仲間には種子が多い。

■葉のつくり

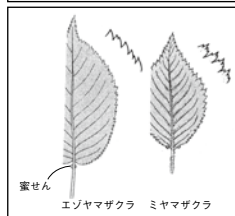
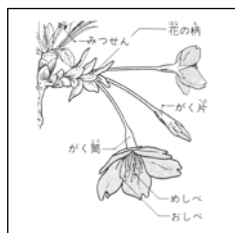
だ円形の葉の先は尖っており、縁には「鋸歯—きよし」があります。種によって葉の縁の「鋸歯」の形が違ってきます。葉のつけ根「葉柄」には蜜がでる「蜜腺」もみられます。

■幹と根

幹の呼吸のため唇のような「皮目」という横長の穴が目立ちます。根は大きな体を支えるため、地面に深く刺さる「主根」と幹を支えながら養分を吸収する「支根」を持っています。



クシロヤエの花びら



久保田氏原図による

●春採湖まめ百科●

■「ハルトリ」の名の由来

アイヌ語研究家の山田秀三氏は「ハルトリーアル・ウトル」を「岬山の向こうの土地」と訳しています。

■春採湖の大きさ

湖としての条件の一つ、最深部が5mラインをクリアし、最深5.7mを保持し、面積は0.36km²と小粒ながら立派な湖となっています。

■天然記念物など

1937年(昭和12年)に「ヒブナの生息地」として、国の天然記念物として指定されました。同じく昭和10年には、チャランケチャシや春採台地堅穴群が国指定の史跡になっています。



ヒメニラ

■おもな動植物

2月中旬の、キバナノアマナなどの「春植物」から始まり400種を超す植物、ヒブナなどの魚類、マガモほかの鳥類等多様な生物群に恵まれています。反面、ウチダザリガニなど湖に侵入してきた外来生物も増えました。

■生いたち

2万年前の氷期に深い谷であったこの地は、気温が上昇し始めると海水の浸入を招き、3000年前頃には周囲を急斜面に囲まれた海跡湖といわれる「春採湖」の原形が現れています。



3000年前頃の春採湖
(湖口を砂が埋める)

湖畔近くの桜の名所

桜ヶ岡 茅野公園

クシロヤエ（釧路八重）街路樹 道道脇

鶴ヶ岱公園

クシロヤエ（釧路八重）街路樹 市道脇

幣舞中学校

エゾヤマザクラ（百年桜）



幣舞中学校「百年桜」

くしろ桜物語

～第一章～

みなもに映る桜色



「緑いっぱい市民運動」世話人会
一般財団法人釧路市公園緑化協会
桜育ての親実行委員会

サクラの仲間たち

サクラの仲間は、植物分類学上ではバラ科に属します。サクラ属に近い仲間には、ウワミズザクラ属・モモ属・アンズ属・ボケ属・リンゴ属などがあげられます。

バラ科

サクラ属 *エゾヤマザクラ
*カスミザクラ
*チシマザクラ
*ミヤマザクラ
*クシロヤエ

*印のサクラは、春採湖畔で見られます。

ウワミズザクラ属

*シウリザクラ
*エゾノウワミズザクラ

モモ属 スモモ

アンズ属 ウメ

リンゴ属 *エゾノコリンゴ
*ズミ

サクラは植物の和名で、カタカナを使います。

その他の仲間たち

ボケ・ヤマブキ・ホザキシモツケ・キジムシロ・ナナカマド・ハマナス・ナガボノシロワレモコウ・ハマナス・キイチゴ・ナシ など



ナカボノシロワレモコウ
Sanguisorba tenuifolia



ホザキシモツケ
Spiraea salicifolia

サクラ大好き日本人

厳しい冬を耐えて待ちわびた「春の使者サクラ」。山野で一斉に開花する豪華さ。旬日で惜しげもなく花びらを散らせる潔さ。日本人の生活に深く関わり、心の琴線に触れる「桜・さくら・サクラ」。古くから「万葉集」や「古今和歌集」に詠まれ、後世の武士に愛され、江戸の町では庶民にも愛され「さくら園芸」として拡大・深化してきた「日本の桜」。日本に20種程分布する野生の「サクラ」と、人が園芸として関わった400余りの「サトザクラ」とが競い合う、満開の桜の下での賑やかな「花見の宴」や散策は、今や日本の風物詩。湖畔では、7種・1000本近い桜が、市民の来訪を待っています。



■編著：大西 英一（釧路専門学校・環境教育研究センター長 前釧路短期大学教授）

■写真：大西 英一
藤澤 慎一（道新文化センターネイチャーウォッチャー）

■空撮：東邦コンサルタント株式会社

■印刷：株式会社藤本印刷

エゾヤマザクラ



エゾヤマザクラ (蝦夷山桜)
別名 オオヤマザクラ・ベニヤマザクラ
Prunus sargentii
北海道を代表する野生のサクラです。
幣舞中学校の「百年桜」は古い歴史を持つ
由緒ある大木です。

カスミザクラ



カスミザクラ (霞桜)
別名 ケヤマザクラ
Prunus verecunda
エゾヤマザクラよりやや遅く開花します。
開花時の様子を霞にたとえたものです。

チシマザクラ



チシマザクラ (千島桜)
タカネザクラ (ミネザクラ) の変種
Prunus nipponica var. *kurilensis*
藻琴山の一部にはタカネザクラが自生して
います。択捉島由来のものをエトロフザク
ラといいます。

ミヤマザクラ



ミヤマザクラ (深山桜)
別名 シロザクラ
Prunus maximowiczii
空気の汚染に敏感で、武佐の森の株は、
瀕死の状態です。開花時期も遅いのです。

- 1 トンボの池駐車場
- 2 ネイチャーセンター
- 3 チャランケチャシ
- 4 観音様石像
- 5 危険な深い沢
- 6 ゴマツリ岬
- 7 春植物の斜面
- 8 旧科学館
- 9 湖畔遊歩道交差点

春採市民の森

春採湖の南東対岸は、炭鉱の「ズリ」などの
埋め立てで、樹木の育たないエリアでした。
平成13年に、12のボランティア団体が集まり
「春採の森創生」事業を始めたのです。10年
以上経過し様々な木が育ち始めましたが、植
樹しただけで森は完成しません。元太平洋炭
鉱常務の近野周悦さんは、創立以後、時には
お一人でも黙々と幼樹の世話を重ねておら
れます。当時植栽された樹木が、今野さん方
の奉仕で立派な森に育ちつつあります。

- A 春採市民の森
B シウリザクラ
C エゾノウワミズザクラ
D カスミザクラ
E クシロヤエ
F ミヤマザクラ
G チシマザクラ
H 幣舞中学校百年桜
(校地内のため立ち入りは許可が必要です)
I エゾノコリンゴ
J スミ
(記号のポイントの他にも自生していますので
撮影等で無理しませんように)

シウリザクラ



シウリザクラ (朱利桜)
別名 ミヤマミズザクラ・シオリザクラ
Prunus ssiori
「シウリ」とはアイヌ語 (苦い) に由来します。
ゴマツリ岬の個体は湖畔で最後に開花するサクラです。

エゾノウワミズザクラ



エゾノウワミズザクラ (蝦夷溝桜)
Prunus padus
北海道だけに自生する種で、花の大きさ、
葉の形、密腺の位置などでウワミズザクラ
と区別しています。

クシロヤエ (釧路八重)
Prunus sargentii 'kusiroyae' JPPBR 145
鶴ヶ岱の稲澤六郎氏によってエゾヤマザクラ
から選抜され、1981年に公式に登録された
「サトザクラ」。40枚近い花びらはおしべが
変形したものです。